

令和6年度

松陰高等学校（通信制）評価 総括

浦安校・新浦安校・市川妙典校・西船橋校

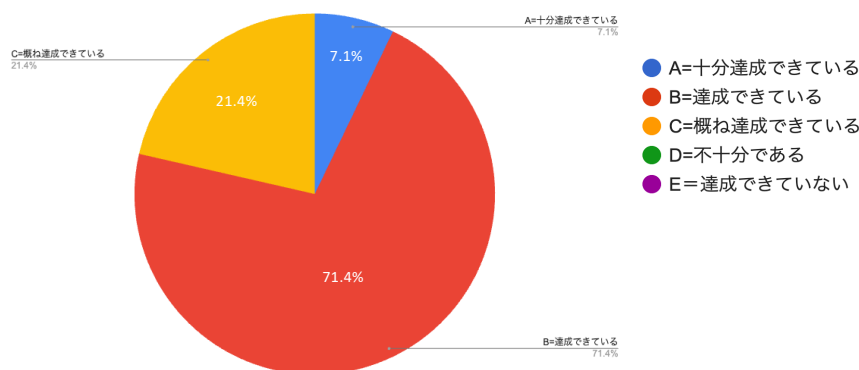
令和7年3月31日

【重点項目】 生徒一人ひとりの継続的な学習の習慣化と学力の向上

【重点目標】

- ・ スクーリング・レポート作成・テストへの個別指導の充実と教科内容の理解
- ・ 学習状況の定期的確認と生徒・保護者への連絡
- ・ 「学習の手引き」の有効な活用
- ・ 個別面談の充実と進路実現へのサポート

A~Eで評価をしてください。



- 学校全体の評価と次年度への課題を記述してください

- 生徒、保護者へはアプリも活用してきめ細かいフォローができています。進路の聞き取りも頻繁に行って進路指導につなげている。
- 一人でも多くの生徒が単位を取得できるよう、保護者様へアプリを通じて連絡を密に行った。一方で、保護者会の機会がなかったので、次年度は実施していく。
- きちんと単位を取得させ、無事に卒業させることが最優先。できれば、卒業後に身になる技量を教科でも特別活動でも行いたい。自信を持てないでいる生徒が多いので、何かを最後までやり切る、人から評価されるという体験の機会を提供していきたい。
- 個別指導が充実しており、適した対応をしている
- 個々に寄り添った運営ができています。個に寄り添い、安心できる場であると実感してもらい、生徒間のコミュニケーションの充実。
- 卒業後の進路指導も個々に対応できていて、ほとんどの生徒が進学先や、就職が決まった。

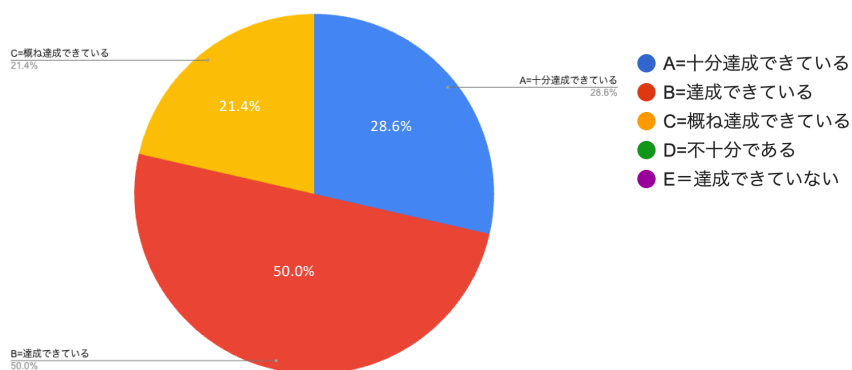
- 生徒一人ひとりが継続的に学習へ取り組む姿勢が定着しつつあり、学力の向上にもつながっている。今後はこの習慣をさらに深め、個々の学習課題に応じた指導を強化していく必要がある。
- 生徒の学力差が大きいためそれぞれの学力の向上が課題であるが、生徒それぞれに向き合った個別指導をしている。学校と生徒・家庭との連絡を密に行い、生徒が学校生活を過ごしやすいように努めている。
- 学習状況の確認については、スクーリング表作成や成績管理表の配布によって、生徒と教員が生徒一人一人の学習状況を把握できる体制が整備されている。
生徒・保護者とはエデュチャットで連絡を取り合うことができる。
次年度は、さらに生徒自身に学習状況や進路の課題を自分事として考え、教員がサポートできる体制が構築することが課題と考える。
- 個人の学習進行度は把握できている。
- 生徒の登下校時に学習進度を確認し、進捗をマネジメントできている。公平性を保ちながらもより生徒の特性に応じた指導形態の多様化が必要である。

【重点項目】望ましい職業感の育成

【重点目標】

- ・ 一人ひとりへのきめ細やかな進路指導の充実
- ・ 進路ガイダンス・個別面談の質の向上

A~Eで評価をしてください。



- 学校全体の評価と次年度への課題を記述してください

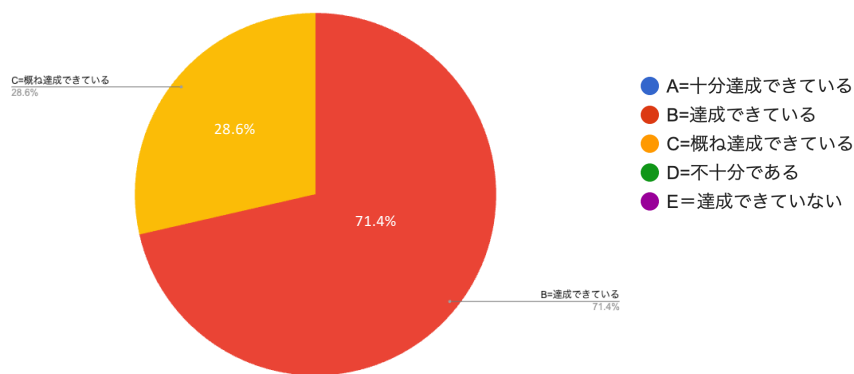
- きめ細かい指導で、ほぼ全員第一志望にすすんでいる。外部講師の授業も取り入れるようになり充実している。
- 特別授業を通して自己理解を深め、希望の進路実現につなげた。
- 進路に対して、親身になって相談にのっているため。
- 一人ひとりの進路に向き合い、就職や進学の手導を行なっている。
- 生徒それぞれの背景に気遣うことはしっかりできていると思う。ただ、「思いやり」といっても、それをどう具体化するかという、教員それぞれに違いがある。統一を図ってブレの無い指導をしていきたい。
- 外部講師を適切に活用している。
- 生徒一人ひとりの適性や興味に応じた進路指導をすべく、望ましい職業観の育成に努めている。月に2,3回の頻度でキャリアガイダンスを実施。また、個別相談は随時、三者面談は年に2回以上行っている。次年度も、継続して個別面談やガイダンスの質にこだわり、進路意識の一層の深化を図る。
- 合同説明会に積極的に参加させ、進学や就職の関心の向上ができた。
- 外部講師に依頼し、一年次から進路ガイダンスを開催できている。ガイダンスが浦安校に集中しているので次年度は、各校舎でもガイダンスや進路指導が展開できるとよいと考える。
- 進路ガイダンスや総合型選抜対策講座の定期開催、キャリアイベントの活用など進路指導については充実傾向にある。明確な進路志望のない生徒や出席僅少の生徒に対して、より細やかな指導が必要である。

【重点項目】 基本的生活習慣と規範意識の確立（学校生活の安心と安全）

【重点目標】

- ・ 社会性と公共心の育成、規範意識の高揚
- ・ 教職員の共通理解による生徒指導体制の充実

A~Eで評価をしてください。



- 学校全体の評価と次年度への課題を記述してください

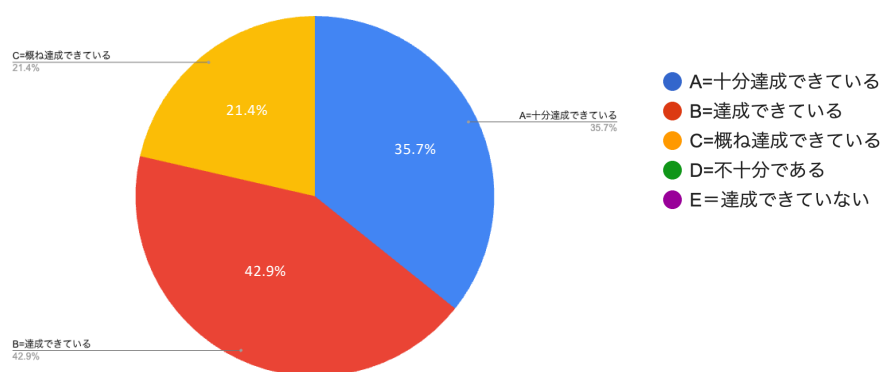
- 特別活動、SST授業、ボランティアを積極的に勧めて活動させるなどで育成に努めている。ボランティアをより充実させていきたい。教職員の共通理解はかなり意識しているが、スクーリング等で難しいときもある。
- 入学時や進級時に学校ルールを生徒及び保護者に伝えたが、一部生徒で逸脱がみられた。また、教員間でも共通認識になっていなかった事例があった。
- 教職員の協力、指導体制はしっかりしている
- 生徒それぞれの特性を踏まえた指導について教員が共通認識を持って対応している。社会性を身につける手助けをしているが、三年間では難しい部分もある。
- 学校全体で基本的生活習慣の定着と規範意識の育成に取り組み、概ね良好な成果を上げている。今後は生徒自ら考え行動する力の育成が課題である。
- 授業中は机上に水筒を出さない、染髪している生徒はいないので達成できているのではないかと考える。
- 校外学習を通して、別教室の生徒とのつながりが出来て良かった。また、公共機関を使うマナーも学べた。
- 職員間で生活指導を行う線引きについて協議・共有できている。個々の状況に応じて、家庭や地域とより綿密な連携を図っていく必要がある。

【重点項目】 健全な心身の育成

【重点目標】

- ・心のケアを通して学校生活を援助する体制作り
- ・教育相談体制の充実
- ・校外学習や宿泊学習を通して心身の充実や道德教育の充実
- ・ボランティア活動を通しての奉仕精神の育成

A~Eで評価をしてください。



- 学校全体の評価と次年度への課題を記述してください

- 心身に不安のある生徒については、グループ内の訪問看護ステーションと連携し、医療・教育・福祉の目線から生徒をケアすることができた。また、校外学習は頻繁に開催し、生徒間の交流を図った。次年度はより多くの生徒が参加できるよう案内していく。
- 生徒に親身になり相談に乗っているなど、相談体制が充実している。またボランティア活動などを積極的に生徒に進めている。
- 本校では、教育相談体制の充実や年に5回の校外学習や毎年行う修学旅行、特別授業の実施をしている。これらの体験活動の積極的な導入により、心身の健全な成長が伺えた。今後は個別支援の強化と道德教育のさらなる深化を課題とする。
- 看護師やカウンセラーの対応が早くできている。生徒・保護者からも頼りにされている。
- カウンセラーがいてカウンセリング制度がある。教職員全体が、生徒のケアに努めており、生徒や保護者の評価もいただいていると感じている。行事の企画やボランティアの募集も定期的に行っている。

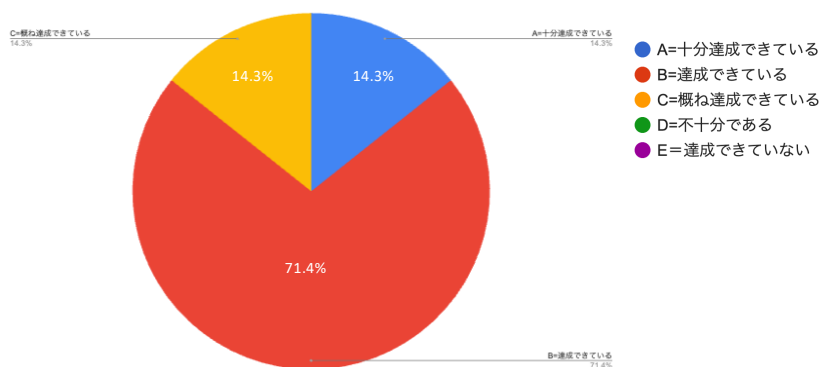
- 保護者ともコミュニケーションをとりながら、生徒が安心して学校生活を送れるような体制をとっている。
- 校外学習が充実している。
- カウンセリング期間を設け、定期的にカウンセリングを実施している。校外学習では、校舎の枠を超えて生徒が交流し、その交流の様子を生徒が嬉々として教員に報告をしている。
次年度も、引き続きこのような学校づくりを心掛けたいと考える。
- 家庭問題等で悩んでいる生徒に対して教員同士で状況把握をし、寄り添える環境作りに努めた。
- 生徒や保護者に対して学期の節目にスクールカウンセリングの機会を設けており、必要に応じて訪問看護等の他部門との連携が可能となっている。学校行事やボランティア活動においては、さらなる地域資源の活用や地域との連携を図っていく必要がある。

【重点項目】 保護者及び家庭との連携

【重点目標】

- ・ 不登校、転編入生など多様な生徒への指導
- ・ 生徒に関する諸問題の解決を図るための家庭との連携強化

A~Eで評価をしてください。



- 学校全体の評価と次年度への課題を記述してください

- 保護者の方々からの質問に真剣に対応し、連携しているのを見たため。
- 保護者との定期的な面談や電話やアプリケーションを通じた連絡体制の強化により、生徒の状況把握と支援が円滑に進んだ。今後も継続していく。

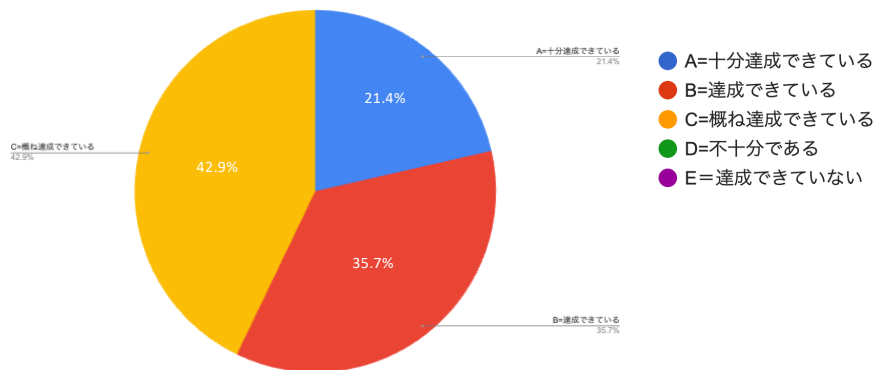
- 定期的に生徒及び保護者に連絡して、ご家庭での状況を把握するように努めた。しかし、改善がみられなかった生徒もいたため、次年度は保護者会かカウンセリングを充実させていきたい。
- アプリから発信する学校通信、個別面談等を通して、保護者とのコミュニケーションを円滑に行い、家庭との連携を図ることが出来ている。
- 保護者との連絡はかなり頻繁に取れている。問題点も逐一共有しているので、安心感を提供できているのではないだろう。
- 多用な生徒への指導は、放課後デイや訪問看護とも連携して行っている。家庭とは連絡アプリや電話で連携しており、評価していただいている。
- 学校と家庭が連携をとりながら生徒の様子を共有し、少しずつでも成長できるよう対応をしている。
- 訪問看護ステーションとの連携が良いと思う。
- 定期的な面談をはじめ、エデュチャットでの連絡体制の構築により相談できる体制が整備されている。次年度もこの体制を引き続き維持できるように努めたいと考える。
- デイサービスを使っている生徒に対しては、訪問介護の方と連携して不安を解決できる様にした。
- 各家庭と連絡ツールによる双方向の情報共有や、必要に応じて関係機関との連携を図っている。不登校支援について、外部機関とさらなる連携を図っていく必要がある。

【重点項目】 郊外活動への積極的な参加

【重点目標】

- ・ 自然や地域との触れ合いを図るための企画内容の検討
- ・ 特別教育活動への自主的参加奨励
- ・ ボランティア活動への積極的な参加奨励

A~Eで評価をしてください。



- 学校全体の評価と次年度への課題を記述してください

- 校外学習がある際は、積極的に参加を呼びかけている。
- グループ内の児童福祉施設での活動を通して、地域交流や教育活動の充実を図ることができた。次年度はグループ外の関係機関とも連携して取り組んでいきたい。
- 校外活動への参加意欲は年々高まっている。地域のボランティア活動や学校行事を通じた地域交流を通じて生徒の社会性が育まれている点は評価できる。今後は活動内容の多様化と継続的な参加体制の整備を課題である。
- 美化運動と児童向けのボランティアが盛ん。生徒も喜んで参加している。地域の祭りなどへどう関わっていくかが今後の課題。
- 校外学習やボランティア活動への参加生徒は徐々に増えつつあるのではないかと考える。次年度は、ボランティア活動の宣伝や校外学習へ行った生徒の体験談などを紹介できる時間を設けて、興味を持ってもらうような取り組みがさらなる参加者増につながるのではないかと考える。
- 校外学習は、楽しく参加できる場所を検討し沢山参加してくれた。ボランティア活動の参加をもう少し奨励していく必要がある。
- 自主的な参加は奨励しているが、なかなか参加が難しい生徒もあり、企画の工夫をしている。可能な時は生徒や保護者の意見も取り入れて反映させている。
- 校外学習は、楽しく参加できる場所を検討し沢山参加してくれた。ボランティア活動の参加をもう少し奨励していく必要がある。
- ボランティア活動の具体的な声かけを行なっているが、参加する生徒は一部にとどまる。
- 自主的な部活動がある。

- 学校行事や特別活動の選択肢を増やし、負担の少ないものを選んで参加することができる。ボランティア活動は活動の幅が内部に限られており、地域との連携を図っていく必要がある。

【評価項目】 教務

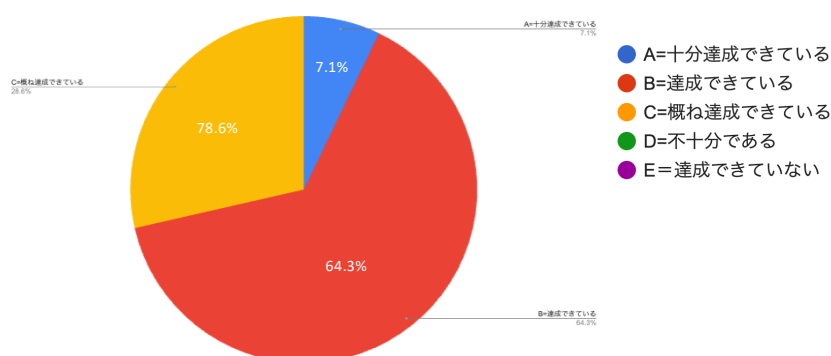
【具体的目標】

- ・生徒一人ひとりが各々の目標を達成できるよう、学校の運営に取り組む。
- ・基礎学力を定着させ、単位 修得に向けての学習の支援 を図る。

【具体的方策】

- ・教科の年間指導計画を作成し、教科教員間の指導の連携と充実を図る。
- ・「学習の手引き」の構成等を検討し、正確で分かり易い内容にする。
- ・スクーリングや校外学習を含む年間指導計画を作成し、生徒が積極的に参加できるようにする。
- ・レポート・スクーリングの状況を定期的に報告し、無理なく学習できる環境を整える。
- ・テストに向けた勉強の支援を行う。
- ・生徒の能力・進路に応じた科目が履修できるような履修科目の設定を考える。
- ・支援システムの効率的な処理ができるようシステムの構築を図る。
- ・家庭との定期的な連絡を通して、生徒の学習状況の把握に努める。
- ・教科担当によるレポートの添削を充実させ、生徒の教科内容の理解を図る。

A~Eで評価をしてください。



- 学校全体の評価と次年度への課題を記述してください

- 習慣を身に付けることに力を注いだ結果、生徒一人ひとりの目標達成を支える体制が整い、基礎学力の定着と単位修得支援が進んだ。来年度は、履修科目の柔軟性と学習支援のさらなる充実が課題である。
- 年間の計画が分かりやすく立てられている。支援体制がしっかりしているため。
- 期初に年間指導計画を策定し、いつどの時期に何が行われるかを視覚化して安心感をもっていただけるように努めた。一方で、登校回数が少ない生徒の場合、単位取得の状況が伝わっておらず、学期末に慌てる場面があった。直近はシステム上厳しいと思われるが、次年度以降は、単位取得状況の把握をオンライン化していきたい。
- 習慣を身に付けることに力を注いだ結果、生徒一人ひとりの目標達成を支える体制が整い、基礎学力の定着と単位修得支援が進んだ。来年度は、履修科目の柔軟性と学習支援のさらなる充実が課題である。
- 大学進学希望者へのサポートは専門的かつ効果的なものが行えている。しかし、志望校を決定するのが遅い生徒もあり、早期から活動に向かわせることが課題。
- スクーリング時はもちろん、通常授業でも意欲的に学習に励む生徒の姿が確認されている。スクーリングの際には、教科担当が机間指導指導を行っている。
次年度は、この体制が維持できるよう努める。
- レポートを仕上げる期限を具体的に決めて、進めやすいようにしているが、出来るだけ早めに完了出来る様に声かけをしていく。
- 学習習慣をつけることから必要な生徒もあり、生徒自身が進度や理解を把握できるような仕組みを工夫している。
- スクーリングなどの年間計画や進行状況を生徒や家庭に周知している。生徒一人ひとりに声掛けや連絡をし、スクーリングやレポートを完遂できるよう指導している。
より学力向上につながるような指導を考えていきたい。
- 日々改善を図りよりよい方法で実施している。
- 生徒が登校時に現在の学習状況を視覚的に確認できるようになっている。より進路に適した履修をするために、進路指導を充実させ、早期にキャリア志向を理解する必要がある。

【評価項目】進路

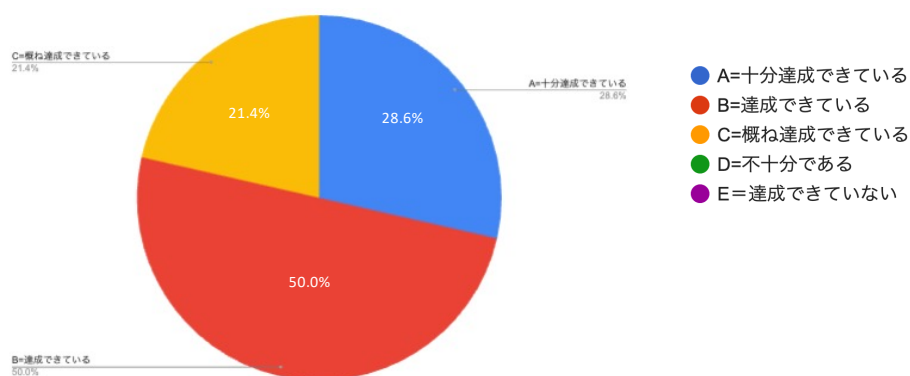
【具体的目標】

- ・生徒の進路実現のため、個に応じた学習計画を立て、前向きな姿勢で学習に取り組めるようにする。
- ・進路における情報収集を図る。

【具体的方策】

- ・自分の興味・関心に気付かせ、それを踏まえて進路の方向性を考えていくようにする。
- ・保護者との連携を深め、生徒の進路に関して三者が共有できる環境を整える。
- ・進路行事を提供し、自己の進路を考える機会を与える。
- ・学年に応じて段階的な進路指導の徹底を図る。
- ・個々の生徒の進路相談を充実させるため、進路関係の情報収集、提供に努める。

A~Eで評価をしてください。



- 学校全体の評価と次年度への課題を記述してください

- 進路の相談、方向性について三者間の共有体制がしっかりしている。進路関係の情報が充実していると感じたため。
- 特別授業の開講や進路説明のイベントに参加等を通して、適切な進路実現を目指した。
- 生徒一人ひとりの興味・関心に応じた進路指導を進め、進路行事や保護者との連携も強化した結果、進路意識の向上が見られた。今後は情報提供の更なる充実が課題である。

- 毎週の「大学進学」に関する授業の実施や、必要に応じたボランティアなどの活動の紹介など、実に多くの有効な機会を設けている。
- 3年生をはじめとした生徒・保護者とエデュチャットを通して、奨学金や書類の確認、面接練習など進路に必要な事項の連絡を行っている。
次年度は、1・2年生の生徒・保護者とも連携を構築して進路実現できるよう努める。
- 今後の進路を考えるきっかけになる様、自己分析をする時間を設けた。学年に応じて段階的な進路指導を進めていきたい。
- 進路指導にはかなり力を入れており、どうしたらいいかわからない生徒にも、自分の価値観と向き合う授業から、より具体的な内容まで、充実した授業を展開している。個別の指導や面談も細やかに行っている。
- 学年に応じ進路を考える機会を与えている。家庭とも連携をとり進路を決めていけるよう手助けしている。
- 進路指導や進路行事の機会は増加傾向にある。現時点でキャリア志向のない生徒や出席僅少の生徒に対して、細やかな指導が必要である。

【評価項目】生活指導

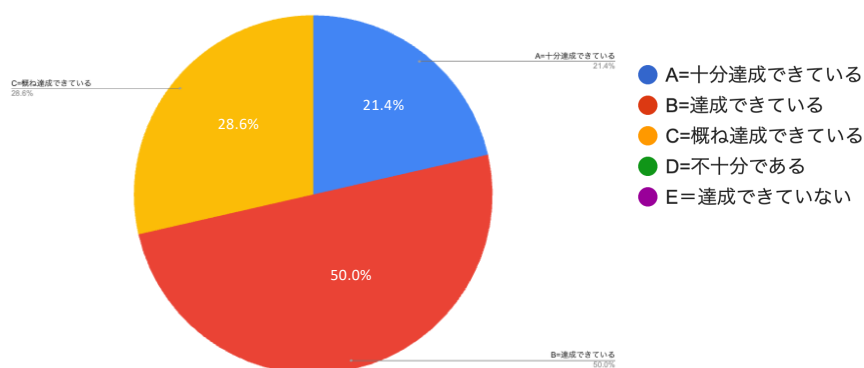
【具体的目標】

- ・学習する環境を整える。
- ・公共マナーの向上と社会的規範の遵守を図る。
- ・思いやりのある心の育成を図る。

【具体的方策】

- ・場をわきまえた行動がとれるように個々への指導を深めると同時に、自分の行動に責任が持てるような人間形成を目指す。
- ・スクーリング、講演、面談などを通して薬物の危険性、有害情報の提供、交通ルールや喫煙マナーなどを指導していく。
- ・人の心の痛みが分かり、思いやりを持った行動がとれるようになる。

A~Eで評価をしてください。



- 学校全体の評価と次年度への課題を記述してください

- ここへの指導体制が充実していると感じたため。
- 学校全体として、生徒一人ひとりの行動変容が見られ、基本的生活習慣や公共マナーの定着が進んだ。一方で、自律的な行動力の育成が今後の課題である。次年度は内面の成長を促す指導の深化を図る。
- LHRや昼休みなど、その都度社会的規範の遵守について説明を行なっている。校外学習で公共のマナーなどを指導している。
- 校舎によっては少人数制で行っており、濃密な人間関係が築けた一方で、交流の幅に制限があったと思われる。次年度は希望者は校舎間の交流を積極的にできる環境を整えていきたい。
- 地域の警察の力添えもあり、出席する生徒へは十分に注意喚起ができています。
- 新浦安校では、昼休みコンビニへ昼食を購入するため外出することができるが、時間内に買い物と昼食を済ませ、公共マナーや社会的規範を遵守して行動しているのではないかと考える。次年度も同様に継続したい。
- 校外学習では、他の人に迷惑がかからない様に周り配慮する事、場をわきまえて行動できる様な人間形成を目指していきたい。
- 毎月のLHRで意識して指導内容に取り入れるようにしている。
- 様々な特性の生徒が同じ空間で学んでいく中で、生徒同士がお互いに配慮し合っているように感じるが、それが過度の負担にならないように注視していく必要がある。

【評価項目】 いじめ対策

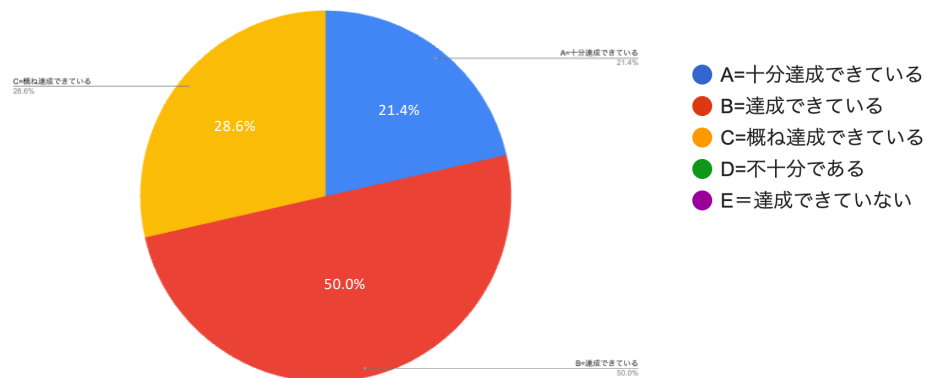
【具体的目標】

- ・ いじめ対策防止基本方針の策定を行い、学校の基本方針を明確にする。
- ・ 教職員間の情報交換を密にし、いじめを未然に防ぐ環境づくりに努める。
- ・ ネットにおける生徒の動向を把握し、情報モラルの指導を行う。
- ・ 外部機関との連携を図る体制づくり

【具体的方策】

- ・ 生徒同士が生き生きと、お互いの良さを認める雰囲気作りに努める。
- ・ 生徒との信頼関係を構築し、生徒の心に寄り添った対応をする。
- ・ 教職員の情報交換を密にし、生徒の理解に努める。
- ・ インターネット等による書き込みを含んだ「いじめ」を未然に防ぐ対応をする。

A~Eで評価をしてください。



- 学校全体の評価と次年度への課題を記述してください

- 生徒と寄り添い、それぞれの生徒の理解しようとする態度がしっかりしていると感じたため。
- 生徒間のトラブルで表立ったものはなかったと思われる。今後も保護者連携のもと、安心して通える学校運営をしていく。
- 何かあったときに相談しやすい環境はできていると思う。早期ならば「話してわかる」という状態になりやすい。
- 生徒同士の気になる言動は教職員で情報共有し、早めに対処するようにしている。

- いじめ対策基本方針を全教職員に周知し、日常的な情報共有と信頼関係の構築に努めた。今後はSNSを含む動向把握と外部機関との連携を強化していきたい。
- 生徒と教員とのコミュニケーションはもちろん、生徒同士のコミュニケーションも細々とみられる。トラブルが発生した際には、即時教員が間を取り持つ体制が整備されている。次年度は、さらなるコミュニケーション向上のための施策を考えたい。
- 賑やかな雰囲気苦手な生徒もいるので、周りに気を配りながらお互いの理解を深める雰囲気作りに努めていきたい。
- 相談しやすい環境づくりに努め、小さなトラブルのうちに解決できている。
- SNSなどスタッフの目の届かない領域を鑑みて、インターネットリテラシー教育の充実が必要である。

【評価項目】 安全健康管理

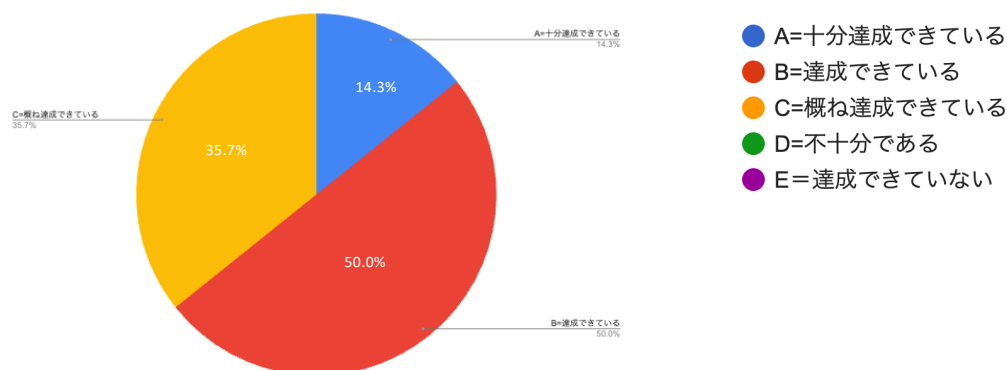
【具体的目標】

- ・心身の健康と自己管理能力の育成を図る。
- ・教育相談の有効活用を図り生徒の悩みに対応できる体制作りを行う

【具体的方策】

- ・生徒の健康診断を実施し、個々の健康維持・安全衛生面について配慮していくことで、生徒が良好な学校生活が送れるように努める。
- ・基本的生活習慣の確立を目指し、自己管理能力を高める。
- ・不登校傾向にある生徒に対しては、家庭訪問を行いながら家庭との連携を図り、生徒が学校生活が送れるよう信頼関係の構築に努める。
- ・不審者や緊急事態への対応の機能の充実を図る。
- ・地域の関連機関との連携を深め、生徒理解に努めることで、生徒を取り巻く環境の改善を図る。
- ・生徒の健全育成を図るため、社会のルールを守るよう指導する。

A~Eで評価をしてください。



- 学校全体の評価と次年度への課題を記述してください

- 看護師が常駐しているため、心身面の健康に不安を抱える生徒は健康チェックやカウンセリングを通して、安心して通える学校づくりにつながったと感じる。
- カウンセラー、看護師が常駐しており、相談しやすい環境が守られている。
- 生徒の心身の健康保持と自己管理能力の育成に努めた結果、概ね良好である。今後は地域・家庭との連携をさらに強化し、早期支援体制の整備を図ることが課題である。
- 訪問看護スタッフとも連携して、生徒の心身の健康状態を把握できる取り組みが行われている。次年度も、継続して行えるとよいのではないかと考える。
- 安全健康管理については、特に問題なかったと思う。
- 登校が少ない生徒や家庭に度々連絡をとり、生徒の様子を聞きながら登校を促している。
- 不登校傾向にある生徒、生活習慣が乱れている生徒の指導には、粘り強く家庭とも連携して取り組んでいる。難しいケースもある。
- 校舎間の連携により、生徒の心身の状況に応じた登校が可能になっている。また必要であれば訪問看護部門と連携した登校も可能である。
- 生徒の悩みに対応できる体制作りが出来ていると感じたため。自己管理能力を高めるための指導を行っていたため。

【評価項目】 生徒募集

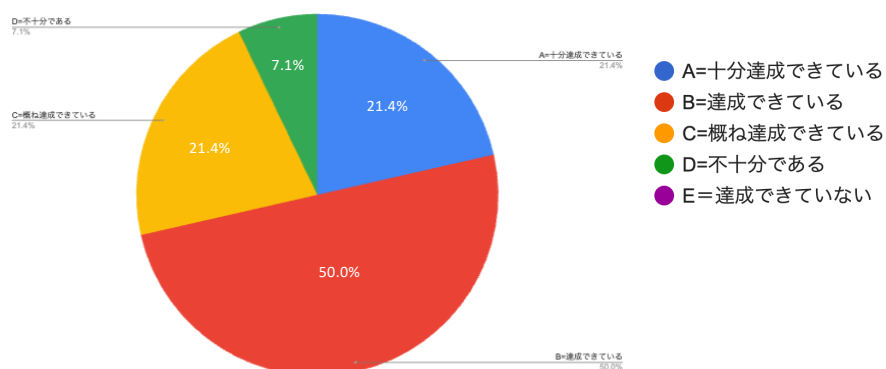
【具体的目標】

- ・ 生徒募集のための広報に努める。
- ・ 地域との連携を深めながら
- ・ 本校の教育目標を理解してもらう。

【具体的方策】

- ・ 学校案内パンフレット、ホームページの内容を工夫・充実させる。
- ・ 地域・他校との連携を深め、生徒募集の効果的な広報に工夫・努力する。また、関係する学校・機関の訪問を積極的に行い、生徒の理解に 努める。

A~Eで評価をしてください。



- 学校全体の評価と次年度への課題を記述してください

- パンフレットやホームページの活用、更新をしている。各学校や機関と連絡を密にとり、生徒の進路選びの一つになるよう努めている。
- ホームページは分かりやすくまとめられているため。
- 他校様との連携やあまりなかったため、次年度は地域交流を活発化していきたい。
- スタッフが自らパンフレット作成や広報活動に当たっているため、伝えたいことを伝えられている。
- パンフレットは常時新浦安校に置いており、配布できる状態を整えている。また、放課後等デイサービス事業所にも置かせてもらい、デイの生徒で興味がある生徒には配布を行っている。次年度も、この取り組みを維持したいと考える。

- 生徒募集は学校訪問もしながら積極的に取り組んでいると思う。
- 広報は積極的に行い、近隣の学校には訪問して、卒業生がどのように過ごしているか、進路がどうなったかなど報告している。
- 教育方針への理解が広がり、生徒募集に一定の成果が見られた。次年度は地域や関係機関との連携を一層強化し、広報内容の質を高め、より効果的な情報発信と地域への広報活動に努めたい。
- 学校や地域の関係機関との連携は進捗している。

【評価項目】 教科

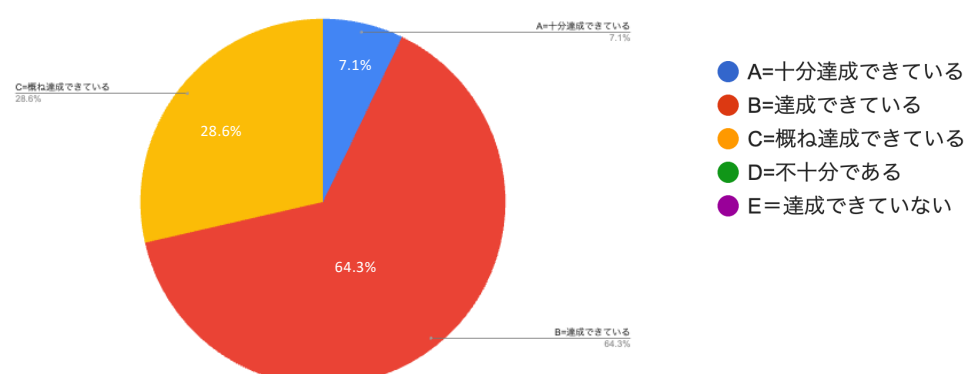
【具体的目標】

- ・ 個々の生徒の個性や能力に応じた教科指導の実践
- ・ 教科の特性を生かした指導
- ・ 担当教科との連携による生徒の指導と把握

【具体的方策】

- ・ 指導内容を振り返り、次のスクーリングに生かす。
- ・ 基礎学力の定着をはかり、生徒ができることの喜びを感じさせる。
- ・ 生徒一人一人の能力・実態に合わせた教材の提供を行う。
- ・ 基本的生活習慣を身に付けさせ、計画的に学習させる。
- ・ レポート指導や添削で生徒への理解をうながす。
- ・ 生徒の個性や能力に応じた教科指導の実践を図り、進路の実現を図る。

A~Eで評価をしてください。



- 学校全体の評価と次年度への課題を記述してください

- 計画的に学習ができるよう、共に表を作成するなどの対応を行っていたため。
- 生徒の分からない点が解決するよう、指導に努めている。生徒それぞれの学力の更なる向上のための具体案を考える必要がある。
- 学習に遅れのある生徒については学び直しからはじめた。しかし、教員のマンパワーが必要なため、次年度はオンラインや動画におきかえることを検討していきたい。
- 履修相談では必ず進路の説明と合わせて丁寧に行えているので、見間違いな履修が無い。
- 学習進捗管理表やスクーリング記録表を活用することで、計画的な学習を促すことができた。次年度も、継続したいと考える。
- 数学や英語等、積み重ねが必要な科目は、1人1人の能力に合わせた指導を実施しているが、生徒が増えてくると、対応を検討が必要かと思う。
- 生徒の個性や実態に応じた支援と基礎学力の定着に努めた。毎週、職員は基礎学力向上を図るため学力試験を行っている。今後も学力試験を続け、更に個人の教材研究を行うように指示したい。
- 基礎学力の低い生徒、学習習慣のない生徒の指導について、継続的な働きかけが必要だと感じる。
- 各生徒の進路の実現に向けて、レポート課題の枠を超えて学習する姿勢と学習環境の整備を進めていく必要がある。

【評価項目】1年生

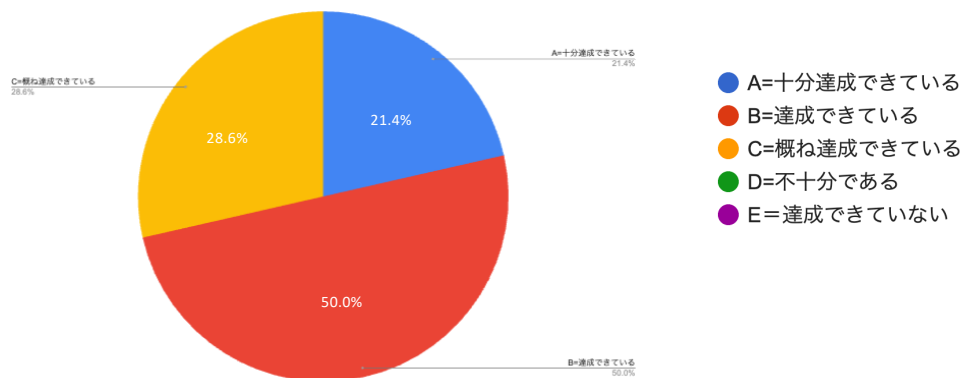
【具体的目標】

- ・ 基本的生活習慣の確立と学習活動の定着化
- ・ 学習環境作りの推進
- ・ 多様な生徒への配慮

【具体的方策】

- ・ 自己の進路目標を設定し、自分に向き合う姿勢を育成する。その中で自信を持たせるような環境作りを目指す。
- ・ 通信制のシステムの中で、個別指導をきめ細かく行う。
- ・ 場をわきまえた行動がとれるような学習の環境作りを施す。
- ・ 体験学習や学校行事への積極的な参加を促す。
- ・ 生徒の様々な状況を把握し、各生徒に適切に対処できるように心がける。

A~Eで評価をしてください。



- 学校全体の評価と次年度への課題を記述してください

- 各生徒の状況、個性を把握し、指導や参加を促すなどの対応を適切に行っている。
- 新しい環境や学習システムに慣れることを第一に考え、生徒に対応している。
- 登校への抵抗となる事柄について、早急な対応ができている。
- レポートで分からないことがあった場合は、即時教員が生徒が理解できるよう説明する体制を整備している。次年度も、この体制を継続したいと考える。
- 不安にしている生徒に積極的に話しかけて、少しでも慣れて来やすい環境に努めている。
- 計画通りに登校や学習している生徒は基本的生活習慣や学習活動が定着し、自分に向き合う姿勢が育ちつつある。今後も多様な背景を持つ生徒一人ひとりへの支援をより丁寧に行いたい。
- 高校生活を送る中で、徐々に生活習慣が整ってきている生徒も多いが、自信をもって様々なことに取り組めるように引き続き適切な対処が必要である。
- ガイダンスや個別相談によって通信制のシステムに順応することができている。進路についてはまだ意識が薄い傾向にあり、計画的に推進していく必要がある。

【評価項目】 2年生

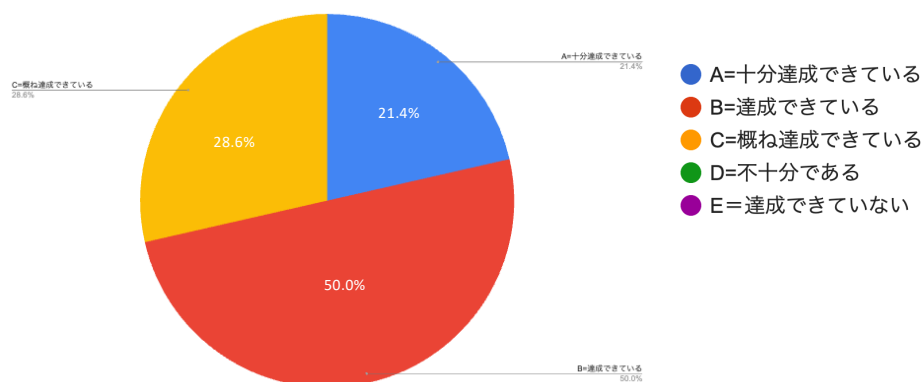
【具体的目標】

- ・ 学習の習慣化の定着による学力の向上
- ・ 進路意識の向上を目指す。
- ・ 学校行事への積極的参加

【具体的方策】

- ・ 個別指導を通して生徒の自覚を促し、スクーリング・出席率・レポートの提出率の向上を目指し、学力の向上を図る。
- ・ 悩みを抱えている生徒の情報把握・生徒理解に努め、適切な対応に心がける。
- ・ 進路の情報収集に努め、進路目標を持たせる。
- ・ 学校行事への参加を呼びかけ、友人との交流を図る。

A~Eで評価をしてください。



- 学校全体の評価と次年度への課題を記述してください

- 生徒の理解に努め、適切な対応を行っている。学校行事への参加を呼びかけ、交友を深める支援を行っているため。
- 生徒間の学力にばらつきがあるものの、個別指導を通して、一人ひとりの学習レベルに合わせた課題の提供ができた。
- 生徒が一年の時の自分と比較して成長できるよう、登校率を上げたり学力向上が出来るよう対応している。

- 出席している生徒には、進路に関する授業などが有効に働いている。
- 学校行事や進路ガイダンスへの呼びかけを通して、参加する生徒が見られている。次年度も、継続したいと考える。
- これから少しずつ進路を考えていく意識の向上を目指していく。
- 2年生では学習習慣が定着した生徒が増え、出席率や提出率も改善傾向にある。進路ガイダンスなどの特別授業を実施しているため、進路への意識も高まりつつある。今後さらなる個別支援と情報提供を行いたい。
- 外部講師の授業なども取りいれて、早くから進路について考えられるようにしている。学校行事参加に消極的な生徒には、できるところから参加するようフォローしている。
- 前年の経験を活かして学習に取り組んでいる。進路関係の活動が増えたことで自身の現状を把握し、悩みを持ち始めた生徒も多いので、細やかな指導が必要である。

【評価項目】3年生

【具体的目標】

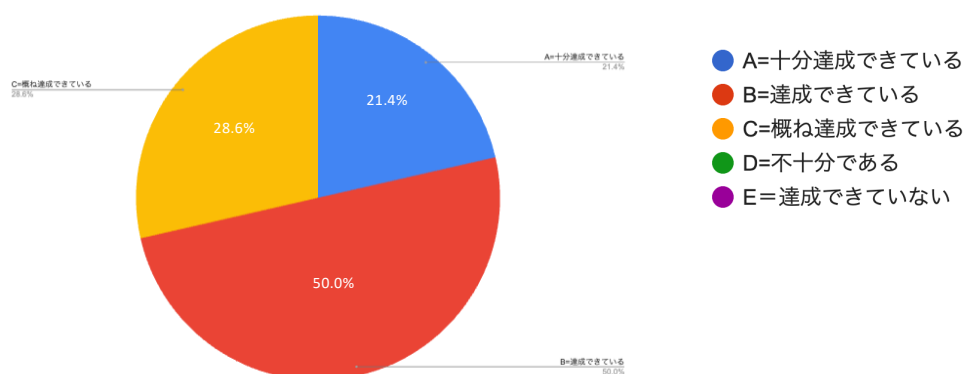
- ・単位取得の徹底と卒業への意識づけ
- ・進路希望の実現
- ・スクーリングや校外学習への積極的な参加による学校生活における充実感の向上
- ・学習意欲の持続・学力の向上
- ・進路指導の充実

【具体的方策】

- ・スクーリングや面談を通じて学習指導の徹底を図り、単位取得を促し、卒業への意欲を高める。そのためにも、生徒や家庭との連絡を密にとり、三者の思いを共有する。
- ・将来に向けての動機付けを行い、進路に対する意識を向上させる。
- ・経験から学ぶ体験学習をはじめとした学校行事への参加を呼びかけ、地域と学校との一体感を味わわせる環境づくりに努める。

- ・ 個別面談あるいは個人学習状況表の確認などで、生徒のレポート提出やスクーリングの参加状況を把握し、生徒の卒業を確実に行う。
- ・ 常勤・非常勤教員と連携し、生徒一人ひとりに応じた適切な学習・進路指導に努める。

A~Eで評価をしてください。



- 学校全体の評価と次年度への課題を記述してください

- 進路に対する意識付け、卒業するために必要なことの確認などの指導がしっかりしていると感じたため。
- 進路実現に向けて主体的に学ぶ姿勢が見られ、卒業への意識も高まってきた。また、卒業をゴールとせず、その先を見据えた学習に力を入れる生徒もいる。今後も、確実な単位取得と学力向上を図るための支援を続けていく。
- 一、二年の時の反省を生かし、また良かった点を認めている。早めのレポート完成を目指し、目指す進路に向けての指導をしている。
- 単位取得や試験についての細かくわかりやすい説明が、全体にも個人にも漏れなく行われている。
- 生徒一人一人の進路実現のため、日々進路情報や進路指導に努めている。次年度も、継続したいと考える。
- 卒業に向けて、進路に対する意識を向上させる
- 概ね進路への意識は育ってきている。悩んでいる生徒にはきめ細かいサポートが必要である。
- 昨年度の卒業生の活動を参考に、早い時期から履修や進路に関する意識が高くなっている。進路の実現に向けて、より細やかな指導が必要である。

【評価項目】 事務関係

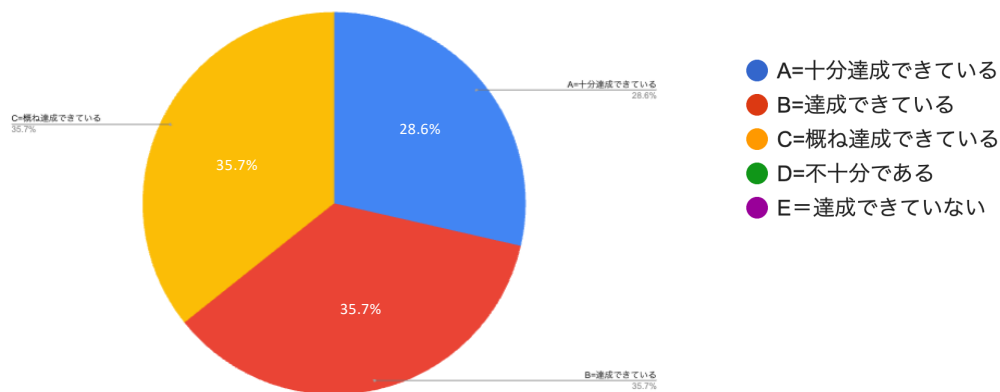
【具体的目標】

- ・ 生徒、保護者からの依頼文書等の対応を適切に行う。
- ・ 関係機関との信頼関係の構築を図る。
- ・ 学校業務が円滑に図れるよう心を配るようにする。

【具体的方策】

- ・ 学割や定期、願い届出等に対しての処理を適切に行っていく。
- ・ 関係機関との信頼関係を築きながら、必要となる文書の作成や生徒・保護者への配布などを適切に行うようにする。
- ・ 学校業務を行う上での環境の整備に心がける。また、学校への問い合わせ等の外部との対応も的確に行うようにする。

A~Eで評価をしてください。



- 学校全体の評価と次年度への課題を記述してください

- 保護者や外部機関との連携体制がしっかりしていると感じたため。
- 生徒・保護者への文書対応や関係機関との連携を丁寧に行い、業務の円滑化に努めた。次年度はさらなる迅速な対応と情報共有体制の強化を行いたい。
- 早めの対応をしている。
- 生徒の提出する各届出書の対応はとても早い。
- レポートや、スクーリング管理を生徒本人も把握していける様に指導していく。

- 分からないことがあっても、他職員に連絡を取って即時に対応することができる体制が整っている。次年度も、継続したいと考える。
- 各種書類の申請手続きや生徒・保護者への文書送付などについて、担当者を中心に適切に対応できている。
- レポートや、スクーリング管理を生徒本人も把握していける様に指導していく。
- 年度末には卒業、進級関係の事務が多く、重要な書類も多いため、学校業務が円滑に行えるようにしなくてはならない。
- 定期的にシステムを見直し、効率化を図っている。